

わが校自慢

南小学校

たくさんのふれあい

本校の自慢は、なににもましてたくさんの児童、たくさんの教師、そしてたくさんの地域のひとびとの支援に恵まれていることです。

そのことで、多くのふれ合いが生まれ、子ども達一人ひとりの個性が磨かれていることです。

例えば、学校支援ボランティアは、17の分野にわたり登録されています。そのうえに昨年は大学生の支援もありました。そのことによる効果は絶大で、少ない目では見逃しそうな個性にも光があたり、一人ひとりが生き生きと学校生活を送っています。

例えば「生活科」や「総合的な学習の時間」です。この学習は、子ども達の興味・関心等に応じてさまざまに学習活動することが重要ですが、本校では多くのボランティアの支援があって豊かに展開されています。

また、各種行事においても、保護者様をはじめ、南地区青少年育成会、おやじの会、社会福祉協議会、郷土研究会等々の各方面からのご支援を得、行われています。その結果、子ども達はより広い活躍の場で、十分に、その持てる個性を發揮しています。

このような本校ですが、結局本校一番の自慢は、真剣になって子ども達をよくしようとしている多くの地域の皆さんと、そのかたがたに見守られながら、生き生きと活動している「町一番多い子ども達」そのものです。



生活科でのふれあい



昔のあそびをおそわったよ

—白岡の古道をゆく vol. 2—

鎌倉街道と
中世創建の社寺・
あかっちやりいせき
赤砂利遺跡

ふるさと

白岡紀行

鎌倉街道と伝承される古道は、4月号で紹介したほかに、高岩から上野田・下野田、太田新井を經由し岩槻方面へ至る道筋が存在します。時期によって複数のルートが推定され、一つに特定するのは困難ですが、この道筋は鎌倉と奥州を結ぶ鎌倉街道の主要道「中道」に当たるといわれています。



現在の鎌倉街道（推定）下野田鷲宮神社付近

高岩から太田新井にかけては、岩付（槻）太田氏の庇護を受けた忠恩寺、鎌倉幕府滅亡時の戦禍を被ったという大徳寺をはじめ、正伝寺、安楽寺や上野田鷲宮神社などの中世創建の社寺が存在します。また、古文書には市が立った場所として「たかゆわ」「野田」の名がみえ、上野田鷲宮神社西側には「日川宮市」という小字名が残っています。

齋我中学校から大徳寺付近には赤砂利遺跡が広がり、発掘調査では多数の井戸や溝、13世紀以降の鏡や櫛、青磁・白磁などの輸入磁器や中部・関西地方の陶器が出土しました。貴重品であった鏡や輸入磁器の出土は、威光を誇った大徳寺の影響が考えられます。

鎌倉街道はこれらをつなぐように通っていたものと思われ、沿道が遠来のひとびとや物流でにぎわったことが想像されます。



赤砂利遺跡発掘調査の様子



赤砂利遺跡出土遺物

